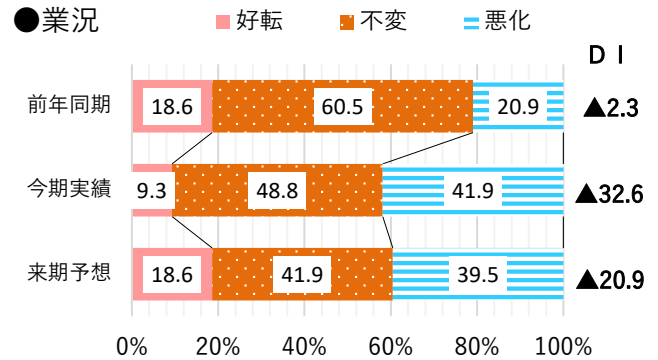


製造業

業況、売上、採算

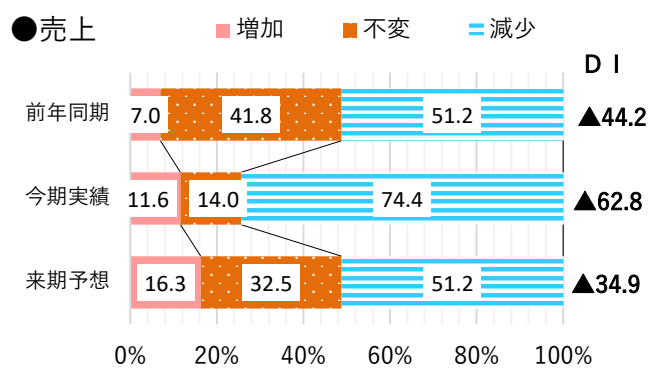
今期(2020.10~12)の業況判断DIは▲32.6で、前年同期(2019.10~12)と比べ30.3ポイント低下し、大幅に悪化しました。

来期(2021.1~3)は、業況の悪化傾向が弱まると予想しています。



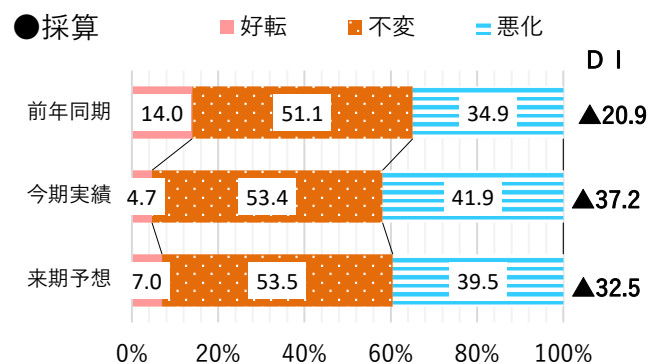
今期の売上DIは▲62.8で、前年同期と比べ18.6ポイント低下しました。

来期は、売上の減少傾向が大幅に弱まると予想しています。

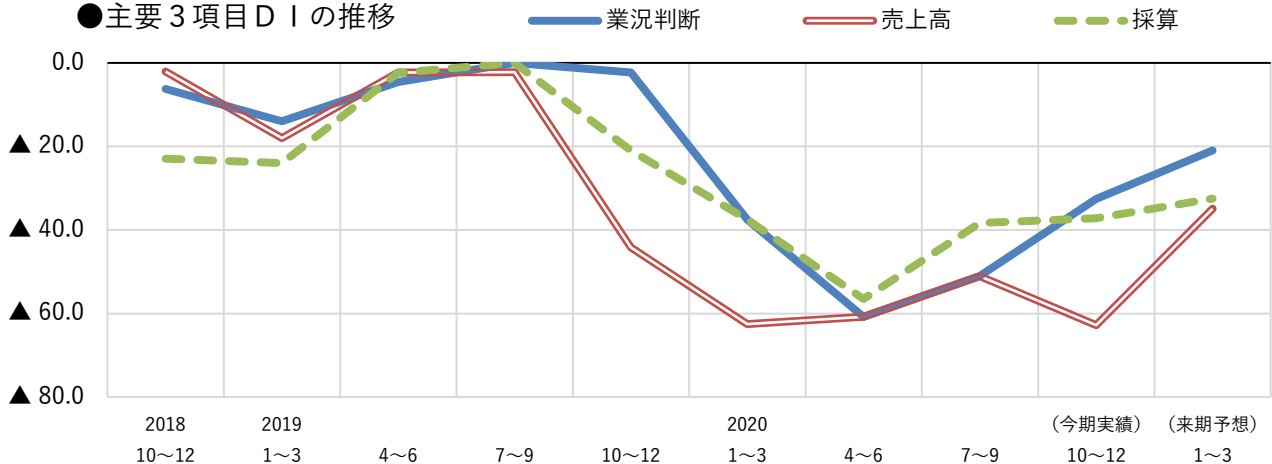


今期の採算DIは▲37.2で、前年同期と比べ16.3ポイント低下しました。

来期は、採算の悪化傾向が弱まると予想しています。



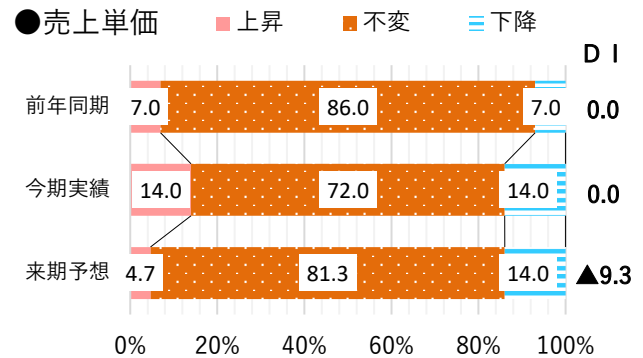
●主要3項目DIの推移



売上（加工）単価、原材料仕入単価、設備操業率

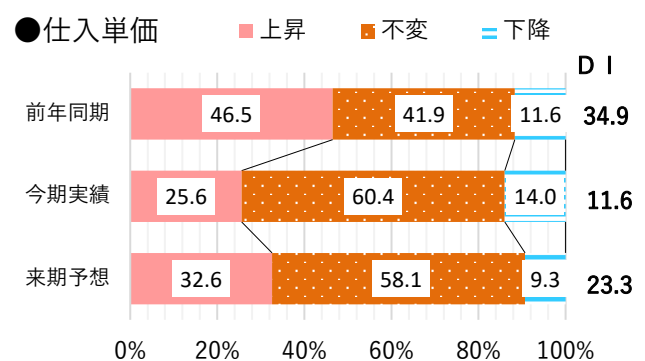
今期の売上単価DIは0.0で、前年同期と比べ横ばいとなりました。

来期は、売上単価が下降すると予想しています。



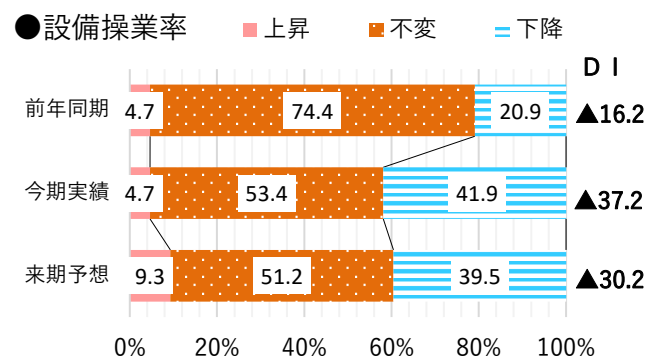
今期の仕入単価DIは11.6で、前年同期と比べ23.3ポイント低下しました。

来期は、仕入単価の上昇傾向が強まると予想しています。



今期の設備操業率DIは▲37.2で、前年同期と比べ21.0ポイント低下しました。

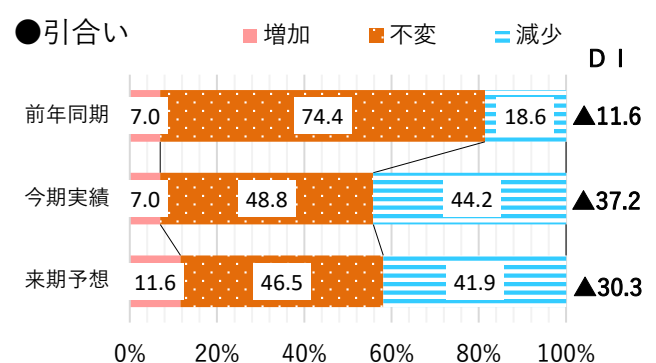
来期は、設備操業率の下降傾向が弱まると予想しています。



引合い

今期の引合いDIは▲37.2で、前年同期と比べ25.6ポイント低下しました。

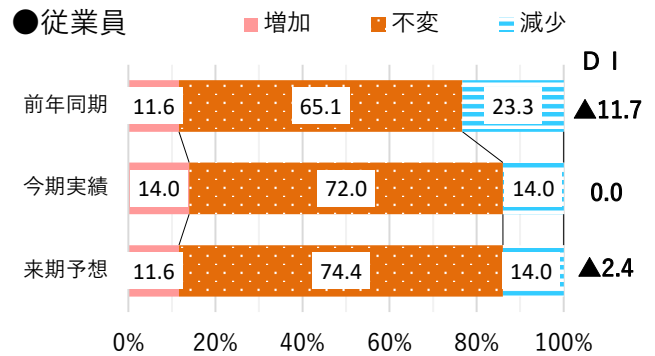
来期は、引合いの減少傾向が弱まると予想しています。



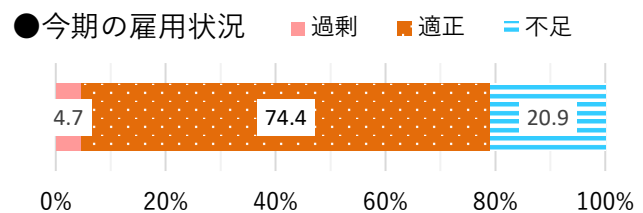
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは0.0で、前年同期と比べ11.7ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ従業員数が減少すると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は4.7%、適正であると回答した企業の割合は74.4%、不足していると回答した企業の割合は20.9%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、製造業全体の55.8%を占めています。

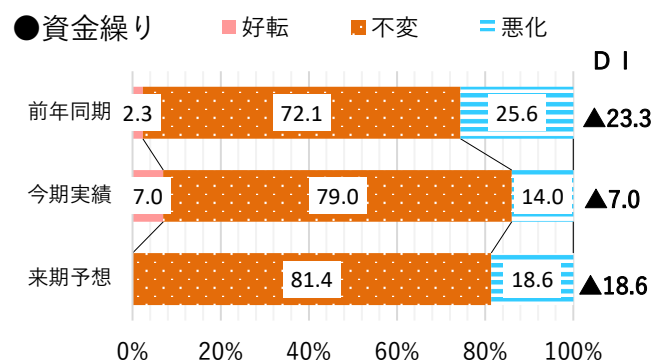
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で増加し、充足している」、「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」（同位）という回答でした。

従業員数変化	雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	5
	不足	1
不変だった	過剰	2
	適正	24
	不足	5
減少した	過剰	0
	適正	3
	不足	3

資金繰り、設備投資

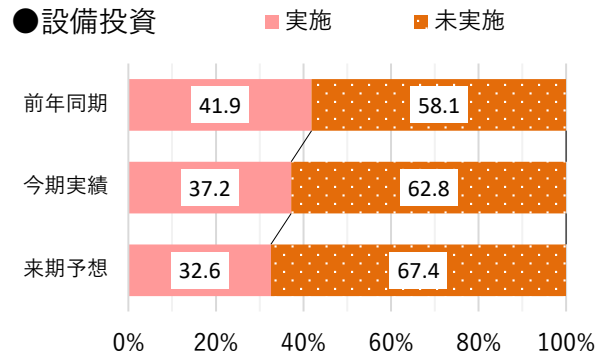
今期の資金繰りDIは▲7.0で、前年同期と比べ16.3ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が強まると予想しています。



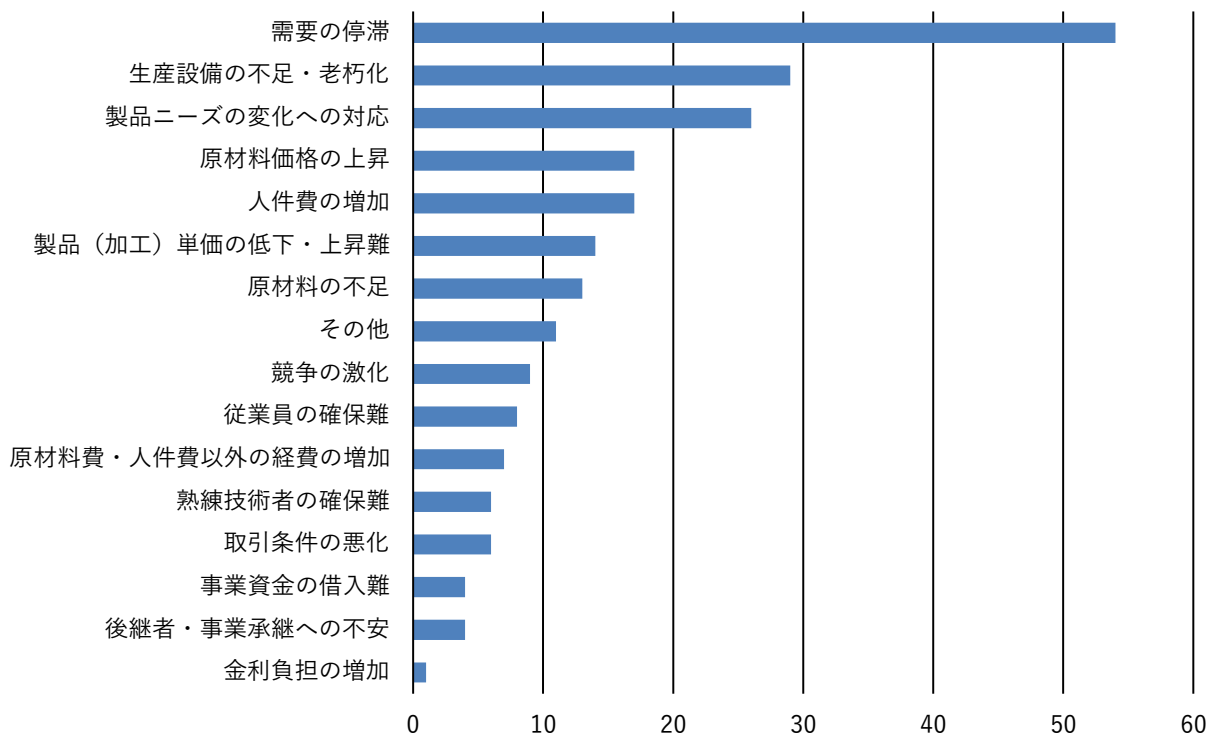
設備投資を実施した企業の割合は37.2%で、前年同期と比べ4.7%減少しました。投資内容は、1位が「生産設備」、2位が「OA機器」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は32.6%で、減少を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「需要の停滞」、2位が「生産設備の不足・老朽化」、3位が「製品ニーズの変化への対応」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 工事計画の延期や見直しが出ており、足元の受注が無くなることによる売上の減少を予想していたが、その通りになった。前年度からの受注による売上はあるが、先行きが不安である。（金属製品）
- 建築業界への不況拡大を感じている。（金属製品）
- 道内需要に変化は無いが、道外需要が低下した。（金属製品）
- 新型コロナウイルスにより、売上が減少した。（金属製品）
- 4～9月と比較し、経済の動きが回復したため、売上が増加した。残業、接待、出張の経費が減少した。利益は前年並みである。（プラスチック）

- 大型案件の販売がずれ込んだため、売上が減少した。(機械器具)
- 新型コロナウイルスの影響で、菓子や土産物関連の段ボール、紙容器の売上が減少した。青果物関連は、作況が良好なため売上が増加したが、加工賃が安いいため、大幅な利益増加にはなっていない。(紙製品)
- 新型コロナウイルスの状況が不透明なため、不安を感じている。消費は落ち込んだ。(ゴム製品)
- 降雪量の減少により、主力商品の売上が減少した。(ゴム製品)
- 容器として使用していた缶が製造を終了したため。一部商品が製造できない状況にある。(油脂加工品)
- この時期の主力である鏡餅の受注が前年より5%程度減少した。減少分は他の商品の伸長によってある程度カバーしたが、全体の売上は前年同期比98%だった。消費に力強さが感じられず、パート人員の確保にも苦労している。(食料品)
- 新型コロナウイルスによって業務用製品の受注が減少し、売上が減少した。肉類の仕入単価が上昇した。良い人材を採用できている。(食料品)
- コロナ禍により売上が激減した。ホテルや居酒屋向けの業務用食材への影響が大きく、今後の見通しが立たない。(食料品)
- 例年通りの販売数を確保したが、原材料仕入単価が上昇したため、利益につながらなかった。(食料品)
- 主原料価格の高値安定と物産展の中止や縮小、土産品の販売不振により、採算が悪化した。(食料品)
- EC事業が好調だが、先行投資が大きく、利益に結び付くか不安を感じている。(食料品)
- 新型コロナウイルスの影響は小さく、例年と変わらない状況だった。(食料品)
- 世界的な主力原料の不足によって売上が減少し、採算が悪化した。(食料品)
- 回復の兆しがあったが、11月から再び発注量が減少している。(食料品)
- 新商品の発売により、前年並みの売上を確保できた。(飲料)
- 仕入価格は不変だった。人材を募集している。(飲料)

[来期の業況について]

- 今期同様、市場の動きが鈍化すると予想する。業界外での消費低迷の影響が出始めており、コロナ禍の終息が見えてこない限り、状況に変化はないと思われる。(金属製品)
- 不況下で生き残るための方策を考えたい。(金属製品)
- 本州からの受注増加が見込まれる。(金属製品)
- 社内で新型コロナウイルスの感染者や濃厚接触者が出た場合、稼働が難しくなる。(プラスチック)
- 新型コロナウイルスの終息が見込めない状況での予算作成に苦労するだろう。(プラスチック)
- 閑散期のため、例年同様に売上が大幅に落ち込むと思われる。新型コロナウイルスによる減収も続くと思われるが、人員削減等で対応する。(紙製品)
- 新型コロナウイルスにより、業況の好転は見込めない。現状維持を見込む。(ゴム製品)
- 新型コロナウイルス次第で業況は大きく変わる。(ゴム製品)
- 新型コロナウイルスの動向に左右される。(ゴム製品)
- 営業活動ができず、先行きは不透明である。(その他繊維製品)
- コロナ禍が続く状態でワクチンが完成しても、今年度はイベント等も無く、人の往来の制限等が続く状況下での売上回復は見込めない。(食料品)
- 先行きは全く見通せないが、引合いに力強さが無く、原材料費や諸経費の上昇が採算悪化の原因となるように思われる。(食料品)
- 輸入にしん、鮭等水産原料の漁獲量が大きく減少し、原材料不足による売上の減少を見込む。(食料品)
- 販売数は2019年度の9割程度を予測している。原材料仕入価格の好転は見込めない。(食料品)
- 原材料価格が従来に戻り、物産展が再開されることで採算は好転すると思われる。(食料品)
- 稼働率を引き上げ、利益確保を目指す。引き続き人材確保に取り組む。(食料品)
- 観光産業向けの出荷が不安定なため、量販店向けの販売に注力する。(食料品)
- 閑散期のため、売上の減少が見込まれる。(食料品)
- 引き続き、EC事業の拡大を図る。(食料品)
- 新型コロナウイルスの感染拡大が続けば、売上減少は必至である。(飲料)
- 8月以降の回復基調が続くと予想している。(飲料)